

# 合同企画展

ほそかわ はじめ

## そのとき 細川一は どう動いたのか

元新日窒(現チッソ(株))水俣工場附属病院院長 細川 一

### 趣 旨

#### 「美しく生きたいな」

死を覚悟した病いの床の中で、細川一元チッソ附属病院院長が語った言葉である。

1954年(昭和29年)5月27日、とある患者がチッソ附属病院を訪れた。それから続々と発生する、原因不明の病気と細川一の出合いである。

附属病院の医者たちは異常事態を察知し、診療が終わってから患者宅を回った。

そして1956年(昭和31年)5月1日、水俣保健所に届け出た。水俣病公式確認の日である。

細川一は、チッソ附属病院院長として世界に類例のない水俣病を猫400号実験で水俣病の原因がチッソの排水であることをつきとめた。その喜びとは裏腹に大変なことを発見してしまったと語っている。そこには複雑な心の揺れがうかがわれる。「水俣病を研究していたときが、一番孤独であった」と晩年、その心境を語っている。

1960年8月27日、事実上禁止されていたアセトアルデヒド排水直接投与猫実験(いわゆるH1実験)を再開、翌1961年全9例の猫の発症に成功させた。しかし公開されなかった。1962年4月30日退職し、1965年7月14日新潟現地調査、鹿瀬工場が新潟水俣病の汚染源と判断した。

細川一は病床の中から証言している。1970年7月4日のことである。東京のガン研附属病院で行われた熊本水俣病裁判出張尋問で、猫400号実験を中心にチッソ社内研究について証言し、当時のメモを提出した。

「あれは完璧だった」と家族にうれしそうに語ったと聞く。それまでの心残りが溶けたのであろう。三ヶ月後、10月13日に69歳の生涯を閉じた。

三年後の1973年、患者勝訴の判決が下された。

細川一と出会った人たち、いっしょに仕事した人たちがいる。記憶をたずねて、医者としての細川一が、勤めていた会社の起こした水俣病の歴史に翻弄されながらも、代行不能のポジションを背負い抜き、人間細川一として、美しくあれと願い生きてきた歴史を伝えたい。

人の健康を守り、命を救うことを本分とする医者の高潔な使命のもと、細川一が水俣病事件の中でどのように動いたのか伝えたい。

水俣市立水俣病資料館・同「語り部の会」・国立水俣病総合研究センター 合同企画展

# そのとき細川一は どう動いたのか

## 新日窒(現チッソ株)水俣工場附属病院院長細川一

昭和31年5月1日、細川一は原因不明の患者を水俣保健所に届け出た。水俣病公式確認の日である。

細川一はチッソ附属病院院長として世界に類例のない水俣病を発見した。猫400号実験で水俣病の原因がチッソの排水であることをつきとめた。その喜びとは裏腹に大変なことを発見してしまったと語っている。「水俣病を研究していたときが、一番孤独であった・・・美しく生きたいな」とは、死を覚悟した病いの中からでた言葉である。

医者として勤めていた会社の起こした水俣病の歴史に翻弄されながらも、代行不能のポジションを背負い抜き、人間細川一として、美しくあれと願い生きてきた歴史を伝えたい。



2008年5月1日～2008年10月末  
水俣市立水俣病資料館

<入場無料・月曜日休館>

電話 0966-62-2621 FAX 0966-62-2271

## そのとき 細川一はどう動いたか

No.	タイトル
1	趣旨
2	細川一の略歴
<b>家族の語る細川一</b>	
5	反対ネ、主人の考えていることと、会社の考えていらっしゃることは・・・(細川夫人談)
6	父細川一を語る 井上静子・宣昭 早く分かって、早く止めるのがチツソのため・・・
<b>有馬澄雄の見た細川一</b>	
7	細川一への道 暗礁に乗り上げていたチツソとの交渉・・・私は、チツソと患者たちの、乗り越えがたいみぞに身を横たえた博士の精神のありようについて考えつづけていた。
8	水俣病の発見以来、博士らの研究の道程は、その絶望に予感しながら進められて来たのではなかったか、と私は沈み込む
9	医家としての細川一HI実験で実験猫すべてを発症させることに成功 しかし、公開しなかった・・・
10	医家としての細川一 奇跡的に生き残ったものの。責任として、社会のために仕事をせねば
11	県下一、二を争う総合病院だった附属病院
12	先人未踏の道へ「会社の敵」あるいは「社会の敵」に
13	何故、細川らによって水俣病は発見できたのか その1
14	何故、細川らによって水俣病は発見できたのか その2
15	五人の医師たちがいた
16	“奇病”の発見 ただならぬ事態の発生
17	“奇病”の発見 もう間違いはない
18	水俣病発見者となる運命
19	懐中の爆弾 細川一らの原因究明
20	責任はわれ一人に
21	細川博士の思考過程 会社の敵になるかも知れぬという一つの道
22	細川博士の思考過程 工場は白であるか黒であるかということ早くぼくは知りたかったんです
23	猫400号は発病した
24	実験は禁止された 一例だけ 宙に浮いたような形になった
25	400号の追試実験で猫発症を確認
26	チツソの反論熊大有機水銀説への猛烈な反撃
27	チツソの反論「十年経って問題にされた一匹」
28	細川博士は新潟に行った。第二水俣病だと断定した
29	言えばもうあとはね・・・
30	「細川証言」はあらゆる意味において博士の全生涯のそして精神のエッセンスである
31	工場医として利潤追究のみを考える工場と生命尊重を第一義とする、小生との間には思想的に相入れないものが根底にあった。
<b>坂東克彦の語る細川一</b>	
32	細川先生の臨床尋問 弁講士坂東克彦(元新潟水俣病訴訟弁護団長)
<b>桑原史成の語る細川一</b>	
33	細川先生は 一瞬にして人を判断するようなどころがある
<b>原田正純の語る細川一</b>	
34	死んでいるはずのこの命を少しでも役に立てたい
35	細川先生の立場は私たち医師にとって決して人ごとではない
36	細川先生は、詩人谷川雁氏に勧められてイプセンの「民衆の敵」を愛読していた・・・いつも辞表をふとこりにしてうちに出た。
37	第二の水俣病をおこしてしまった
<b>濱元二徳の語る細川一</b>	
38	細川先生は 患者のために証言してくれた

## そのとき 細川一はどう動いたか

No.	タイトル
<b>谷川健一の語る細川一</b>	
39	医者として「代行不能のポジション」を背負いぬく・・・
<b>石牟礼道子の語る細川一</b>	
40	美しく生きたいのですがね。我々は凡人ですからね。美しい話をしたいなあ
41	細川先生が息をひきとられたというお電話を受けたとき、スタッフたちも浜元フミヨさんも顔を見合わせな がい間、誰も声を発しなかった
42	先生の孤独によって、たぶんわたくしどもは救われていました
43	チツソはしかし、このままでは、助からないなあ
<b>生まれ そして眠るふるさと</b>	
44	細川博士を育てた ふるさと三瓶
45	生誕の碑の前で
46	細川家のお墓の前で
<b>いっしょに仕事をして</b>	
47	細川先生といっしょに仕事して その1(当時、附属病院内科医 小嶋照和)
48	細川先生といっしょに仕事して その2(当時、附属病院内科医 小嶋照和)
49	細川先生は部下思いだった 坂本夫妻
<b>その他</b>	
51	新日窒水俣工場付属病院
54	細川博士の言葉
56	細川証言(水俣病裁判)
66	新聞記事